

# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

－ 2009年2月調査結果 －



2009年2月27日

## <結果のポイント>

- ◇2月の全産業合計の業況DIは▲73.4と、1989年4月の調査開始後の最悪値を3カ月連続で更新した。また、全産業合計の売上DI、採算DI、資金繰りDI、従業員DIも調査開始後の最悪値を記録。
- ◇業種別では、米国金融危機に伴う世界経済の減速などの影響により、受注が大幅に落ち込んだ製造業や、先行き不安に伴う消費の低迷が大きく影響した小売業・サービス業の低迷が目立つ。製造業とサービス業の業況DIは、調査開始後の最悪値を記録。
- ◇また、受注や売上の低迷に伴う採算悪化などの影響により、人員削減や倒産・廃業が増加、全産業合計の従業員DIは▲20.2と、調査開始後の最悪値を記録。
- ◇来月以降も、受注の減少や売上の悪化など、更なる業況の落ち込みを懸念する声が、各業種から寄せられている。

## ----- 調査要領 -----

- 調査期間 2009年2月16日～20日
- 調査対象 全国の404商工会議所が2578業種組合などにヒアリング  
(内訳) 建設業：381 製造業：615 卸売業：236  
小売業：734 サービス業：612
- 調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として当面する問題など

## ※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算：(好転) - (悪化)      売上：(増加) - (減少)

-----

【本件照会先】 産業政策部 TEL:03-3283-7836  
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp  
<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

## <2009年2月調査結果の概要>

### 業況DIは、最悪値を3カ月連続で更新

- 2月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲71.3）よりマイナス幅が2.1ポイント拡大して▲73.4となり、1989年4月の調査開始後の最悪値を記録した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売でほぼ横ばいとなったものの、他の4業種では拡大した。特に製造、サービスは調査開始後の最悪値を記録。

景気に関する声、当面する問題としては、原油や一部原材料価格の下落により、採算の改善を期待といった声があるものの、受注の大幅な減少や売上の低迷により、収益面では厳しい状況。また、米国金融危機の影響に伴う先行きへの不安や、金融機関の貸出姿勢の厳格化などを訴える声も非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月以上に強まっており、人員削減や倒産・廃業の増加に関する声が各業種から寄せられている。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

#### **【建設業】～業況DIは98年4月以来の水準～**

- ・「公共工事の大幅な削減に伴う競争の激化に加え、資金繰りも悪化するなど、厳しい状況」（建築工事業）
- ・「景気悪化に伴う民間設備投資の中止・延期により、今後は売上がさらに減少する見込み」（建築工事業）
- ・「発注先からのコストダウン要請により、収益が減少」（左官工事業）

#### **【製造業】～業況、売上、採算、資金繰りDIは、調査開始後の最悪値～**

- ・「販売先の業況悪化に伴う事業の縮小により、売上が減少」（紙製造業）
- ・「来月以降の受注が大幅に減少するなど、先行きの見通しは厳しく、廃業する業者も発生」（一般産業用機械製造業）
- ・「自動車関連の受注が対前年比70%以上減少し、稼働日も週3日と厳しい状況」（自動車・附属品製造業）

#### **【卸売業】～従業員DIは03年3月以来の水準～**

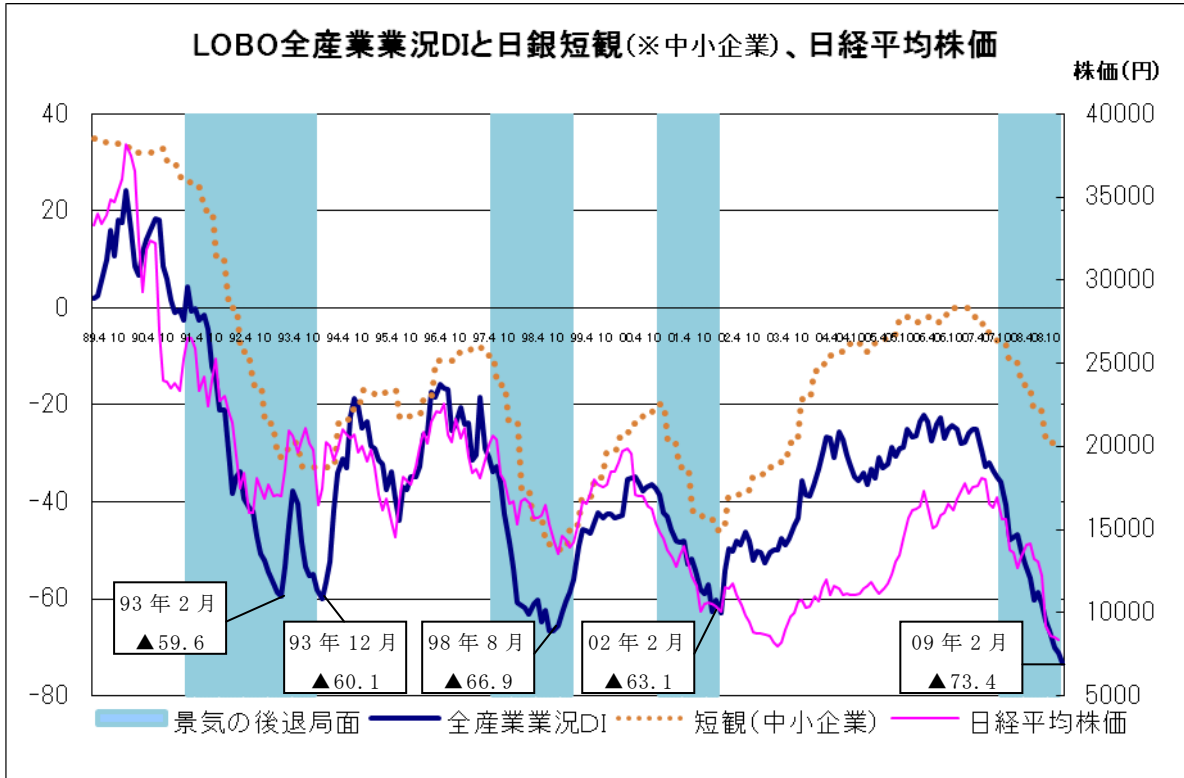
- ・「業況の悪化に伴い、従業員の就業日数を削減」（農畜産水産物卸売業）
- ・「資材価格は昨年同期に比べ高水準であるのに対し、取引先からの値下げ要求が強く、収益は減少」（農畜産水産物卸売業）
- ・「今後、更なる受注の減少や売上の悪化が見込まれ、倒産・廃業の発生を懸念」（家具・建具等卸売業）

#### **【小売業】～売上、採算、資金繰りDIは、調査開始後の最悪値～**

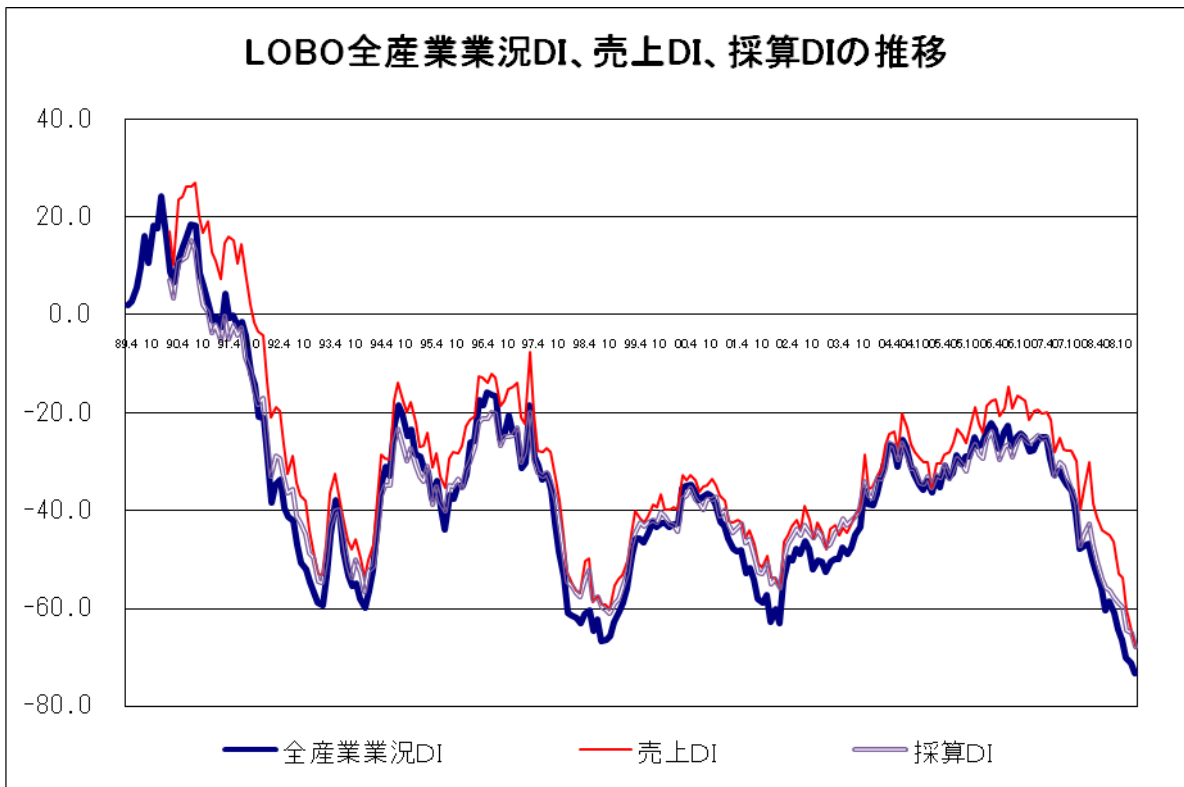
- ・「消費者の低価格志向が強まり、値頃商品しか売れない状況」（百貨店）
- ・「売上の悪化に加え、競合他社との価格競争により、収益が減少」（百貨店）
- ・「売上単価・数量ともに減少が続き、廃業も検討しなければならない状況」（商店街）

#### **【サービス業】～業況、売上、採算、資金繰り、従業員DIは調査開始後の最悪値～**

- ・「自動車・不動産関連業者を中心に、IT関係の受注が減少」（情報処理）
- ・「収益の悪化に伴い、人件費の削減を検討」（食堂・レストラン）
- ・「ビジネス関連の来客数が減少し、売上が悪化」（旅館）



※短観 (中小企業) : 資本金 2 千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

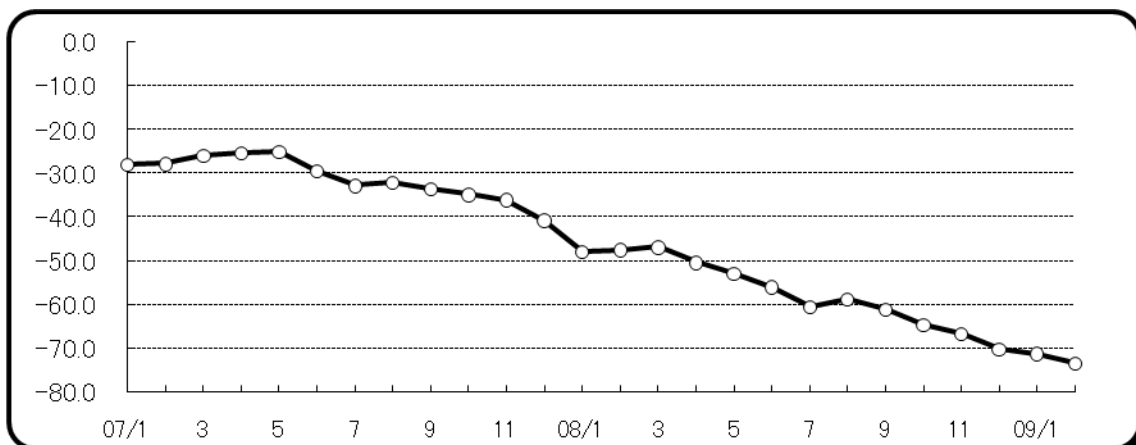
- 2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲71.3）よりマイナス幅が2.1ポイント拡大して▲73.4となり、1989年4月の調査開始後の最悪値を記録した。
- 産業別にみると、D I 値のマイナス幅は卸売でほぼ横ばいとなったものの、他の4業種では拡大した。中でも、製造、サービスは調査開始後の最悪値、建設は98年4月以来、小売は98年1月以来の水準。
- 向こう3カ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が▲67.1と、昨年同時期の先行き見通し（▲41.6）に比べて25ポイント以上悪化している。
- 産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対し、16ポイント以上マイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	08年 9月	10月	11月	12月	09年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲61.2	▲64.6	▲66.7	▲70.2	▲71.3	▲73.4	▲67.1 (▲41.6)
建設	▲70.8	▲71.1	▲70.0	▲74.2	▲73.2	▲75.8	▲71.7 (▲54.6)
製造	▲59.8	▲59.8	▲68.3	▲72.7	▲72.5	▲75.6	▲73.9 (▲38.8)
卸売	▲59.7	▲63.8	▲67.6	▲67.6	▲71.6	▲71.1	▲60.7 (▲44.3)
小売	▲59.2	▲64.4	▲64.8	▲69.2	▲70.6	▲71.5	▲64.8 (▲43.2)
サービス	▲59.7	▲65.9	▲64.6	▲67.3	▲69.6	▲72.6	▲62.5 (▲33.2)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年2月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



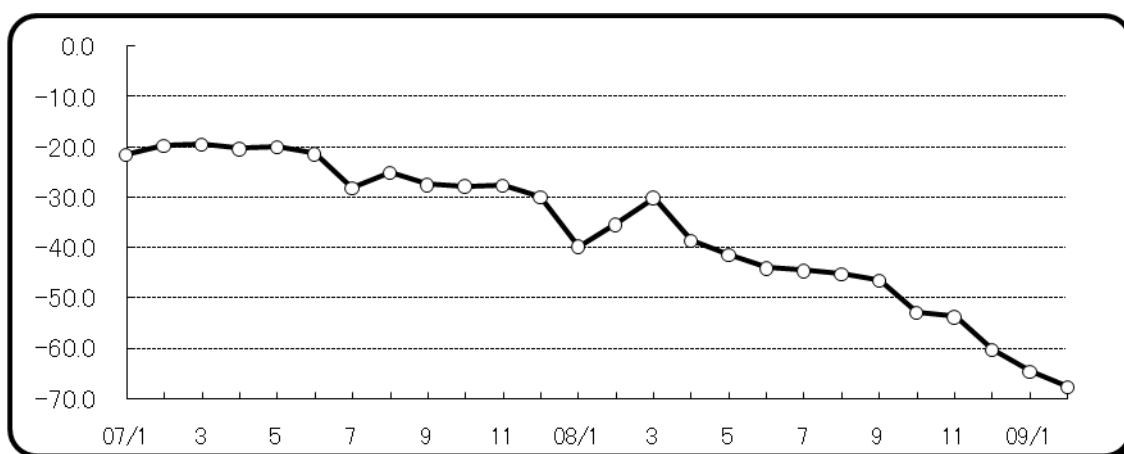
## 【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が3.0ポイント拡大して▲67.7となり、11カ月連続で悪化、調査開始後の最悪値を記録した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、卸売で縮小したものの、他の3業種では拡大した。中でも製造、小売、サービスは、調査開始後の最悪値を記録。
- 向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が▲60.0と、昨年同時期の先行き見通し(▲28.0)に比べ32ポイント悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で12ポイント以上マイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年 9月	10月	11月	12月	09年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲46.5	▲52.9	▲53.8	▲60.4	▲64.7	▲67.7	▲60.0 (▲28.0)
建設	▲63.1	▲65.3	▲62.8	▲63.1	▲69.4	▲68.2	▲61.2 (▲48.8)
製造	▲41.6	▲47.7	▲51.2	▲59.2	▲65.4	▲72.3	▲66.2 (▲17.5)
卸売	▲43.6	▲42.3	▲50.0	▲60.0	▲60.1	▲57.8	▲50.4 (▲30.9)
小売	▲44.0	▲55.0	▲53.9	▲58.7	▲63.8	▲67.7	▲60.3 (▲29.9)
サービス	▲45.4	▲52.0	▲52.0	▲61.9	▲64.0	▲66.5	▲56.5 (▲22.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



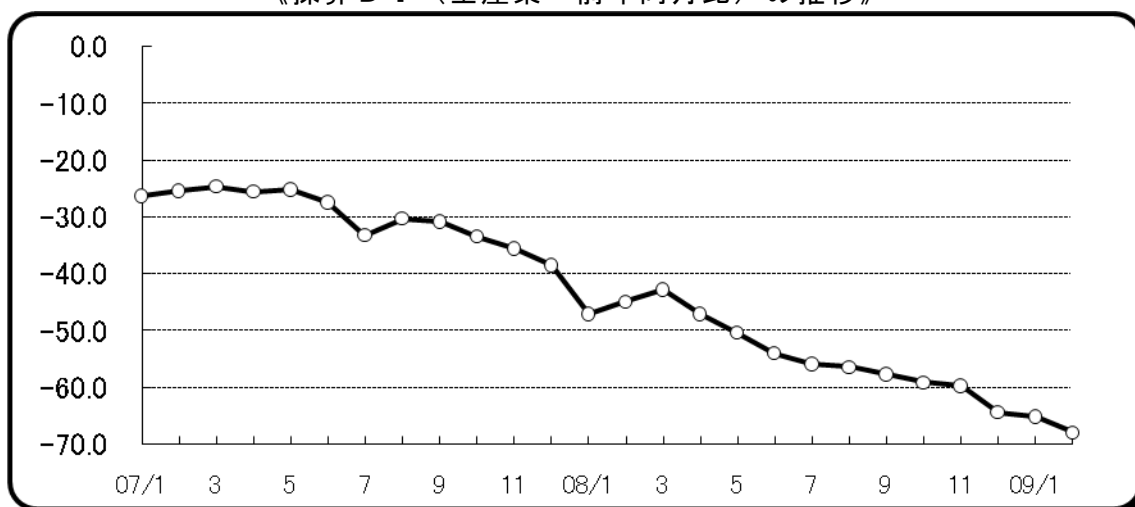
### 【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.8ポイント拡大して▲67.9となり、11カ月連続で悪化、調査開始後の最悪値を記録した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種では拡大した。中でも製造、小売、サービスは、調査開始後の最悪値を記録。
- 向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲60.8と、昨年同時期の先行き見通し(▲38.2)に比べて22ポイント以上悪化している。
- 産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種で9ポイント以上マイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 9月	10月	11月	12月	09年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲57.7	▲59.1	▲59.7	▲64.4	▲65.1	▲67.9	▲60.8 (▲38.2)
建設	▲70.8	▲70.1	▲67.5	▲66.4	▲68.5	▲70.8	▲62.8 (▲53.3)
製造	▲60.9	▲60.3	▲62.4	▲68.3	▲67.8	▲73.6	▲67.5 (▲38.7)
卸売	▲51.7	▲50.3	▲57.7	▲57.9	▲59.5	▲55.2	▲48.5 (▲38.9)
小売	▲51.5	▲53.9	▲55.1	▲61.4	▲62.3	▲66.5	▲61.2 (▲34.5)
サービス	▲55.7	▲60.4	▲58.2	▲65.3	▲65.7	▲67.0	▲56.8 (▲32.4)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	08年 9月	10月	11月	12月	09年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲ 37.9	▲ 41.3	▲ 41.5	▲ 45.9	▲ 45.8	▲ 48.5	▲ 46.9 (▲ 28.8)
建設	▲ 52.0	▲ 55.0	▲ 55.2	▲ 56.8	▲ 51.6	▲ 59.2	▲ 56.1 (▲ 46.4)
製造	▲ 38.2	▲ 43.8	▲ 44.9	▲ 50.1	▲ 52.6	▲ 54.2	▲ 53.8 (▲ 26.4)
卸売	▲ 30.5	▲ 32.1	▲ 37.0	▲ 42.3	▲ 43.0	▲ 41.1	▲ 37.2 (▲ 27.1)
小売	▲ 30.8	▲ 35.1	▲ 34.9	▲ 38.2	▲ 38.6	▲ 40.2	▲ 39.8 (▲ 25.1)
サービス	▲ 39.6	▲ 40.2	▲ 38.1	▲ 44.3	▲ 44.3	▲ 47.8	▲ 45.5 (▲ 25.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、調査開始以来最悪の水準。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。中でも、建設、製造、小売、サービスは、調査開始後の最悪値を記録。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	08年 9月	10月	11月	12月	09年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲ 58.0	▲ 55.1	▲ 49.6	▲ 40.4	▲ 31.1	▲ 28.0	▲ 18.6 (▲ 47.5)
建設	▲ 62.5	▲ 61.4	▲ 55.7	▲ 46.6	▲ 35.0	▲ 34.1	▲ 24.9 (▲ 50.6)
製造	▲ 64.2	▲ 62.5	▲ 54.7	▲ 42.4	▲ 29.3	▲ 28.4	▲ 14.0 (▲ 52.9)
卸売	▲ 45.6	▲ 45.0	▲ 36.6	▲ 29.2	▲ 19.6	▲ 18.0	▲ 14.9 (▲ 43.3)
小売	▲ 54.6	▲ 50.0	▲ 44.9	▲ 35.5	▲ 30.4	▲ 27.2	▲ 15.5 (▲ 41.9)
サービス	▲ 57.7	▲ 53.4	▲ 51.2	▲ 44.5	▲ 35.8	▲ 28.4	▲ 24.3 (▲ 48.4)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲ 28.0となり、上昇感が6カ月連続で弱まった。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 9月	10月	11月	12月	09年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	▲ 7.6	▲ 11.1	▲ 10.8	▲ 16.3	▲ 18.1	▲ 20.2	▲ 22.2 (▲ 3.4)
建設	▲ 25.8	▲ 28.6	▲ 28.7	▲ 30.3	▲ 39.6	▲ 37.4	▲ 37.0 (▲ 18.8)
製造	▲ 8.0	▲ 13.4	▲ 13.8	▲ 22.9	▲ 27.5	▲ 28.7	▲ 30.5 (▲ 1.5)
卸売	▲ 14.3	▲ 13.4	▲ 11.3	▲ 15.3	▲ 17.0	▲ 18.8	▲ 23.9 (▲ 5.4)
小売	0.5	▲ 3.3	▲ 3.5	▲ 8.5	▲ 5.4	▲ 8.2	▲ 11.6 (▲ 0.2)
サービス	▲ 2.3	▲ 5.2	▲ 4.1	▲ 10.1	▲ 9.7	▲ 14.5	▲ 15.5 (1.1)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、過剰感が3カ月連続で強まり▲20.2と、調査開始以来最悪の水準。産業別にみても、D I値は建設でほぼ横ばいとなったものの、他の4業種では過剰感が強まった。中でもサービスは、調査開始後の最悪値を記録。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、サービスで過剰に転じ、他の4業種で過剰感が強まる見通し。



## 【2009年2月の景気キーワード】

### ○ 受注の大幅な減少

米国金融危機の影響に伴う受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。建設業からは、「公共工事の減少に加え、景気の悪化に伴う民間設備投資の減少により、売上が大幅に悪化」（境港・建築工事業）、「住宅産業は昨年以上に厳しく、発注件数もかつてないほどの落ち込み」（岩見沢・建築工事業）、製造業からは、「世界的な不況の影響から、自動車を始め工作機械・建設機械・家電製品の受注が大幅に減少」（金沢・金属製品製造業）、「受注は対前年比で50%の減少、今後はさらに悪化する見込み」（袋井・その他の機械製造業）などの声が寄せられている。

### ○ 消費マインドの冷え込み

景気の悪化や先行きへの不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上の悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。小売業からは、「昨年に比べ、冬物衣料や家電品、寝具類の売上が減少」（赤穂・百貨店）、「低価格品であっても、生活必需品以外は売れない厳しい状況」（ひたちなか・その他の小売業）、「年明けから売上の低迷が続き、飲食業の空店舗も増加」（金沢・商店街）、サービス業からは、「特に平日夜の売上が大幅に減少するなど、消費意欲の低迷が顕著」（館山・食堂・レストラン）、「来月以降の来客数の増加を期待しているが、予約は少なく、不安な状況」（銚子・旅館）といった声がある。

### ○ 雇用情勢の悪化

こうした売上の低迷を始めとする業況悪化の影響などから、2月は、倒産・廃業に加え、雇用調整や人員削減を行ったとの声が顕著である。建設業からは、「厳しい状況が続き、従業員を増やさずに社内で人員をやり繰りし、人件費を抑えている」（土別・一般工事業）、製造業からは、「受注の大幅な減少により、従業員の定時退社や週休が3日となり、一部業者では人員削減も実施」（豊橋・自動車・附属品製造業）、「自動車・建築関連の売上減少に伴い、時間外勤務がなくなり、従業員の賃金が減少」（大津・計量器測定器等製造業）、小売業からは、「業況が悪化し、退職者の補充を行わず人件費を抑制」（都城・百貨店）、サービス業からは、「現在の厳しい状況では従業員を雇用する余裕はなく、家族で営業している店舗が多い」（水戸・食堂・レストラン）などの声が寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
08年12月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	先行き不安感の拡大
09年 1月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	先行き不安感の拡大
2月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	雇用情勢の悪化

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

※本文中の（ ）内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大、売上D Iは3カ月ぶりに縮小した。「公共・民間工事とも、来月以降の受注の見通しが立たず、先行きが不透明」、「競争激化に伴う受注価格の低下により、収益が減少」（ともに一般工事業）、「受注の大幅な減少が続き、倒産や廃業も発生」（建築工事業）、「建築工事は新築・リフォームともに不調」（積石工事業）、「銀行の貸出姿勢の厳格化により、資金繰りが厳しい」（電気工事業）といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは11カ月連続、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「原材料価格の高止まり対し、売上の悪化が続き、収益確保は困難な状況」（他の食料品製造業）、「住宅着工数の減少で売上が悪化し、廃業を検討する業者も発生」（製材木製品製造業）、「商社からの受注の減少が続くなど、収益確保が厳しい状況」（陶磁器・同関連製造業）、「需要の急激な減少に加え、資金繰りも悪化し、一時的に休業する事業所も発生」（鉄素形材製造業）、「受注の減少に伴う人員削減の実施は時間の問題」（通信機械器具製造業）といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは5カ月ぶり、売上D I、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「現在の厳しい状況が続けば、倒産や人員削減は避けられない見込み」（衣服・日用品卸売業）、「消費者の買い控え傾向が強まり、安くても生活必需品以外は売れない状況」、「企業の食堂向け食材の受注が減少するなど、今後の売上の更なる悪化を懸念」（ともに農畜産水産物卸売業）、「売上の低迷に伴い、人件費を削減せざるを得ない状況」、「住宅関連は法人・個人ともに不振のため、収益が減少」（ともに家具・建具等卸売業）といった声が寄せられている。
小 売	業況D I、採算D Iは7カ月連続、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「地元企業の倒産が増加しており、売上への悪影響を懸念」、「バレンタインの売上は昨年並みだが、衣料品は相変わらず低調」、「暖冬の影響で、冬物バーゲンの売上も低迷」（すべて百貨店）、「円高と世界的な景気悪化の影響に伴い、アジアからの観光客数が減少」、「イベントを実施しても来街者は少なく、売上の増加は難しい状況」（ともに商店街）といった声が寄せられている。
サービス	業況D I、売上D I、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「空店舗や閉店が目立ち、今後も厳しい状況が続く見込み」（食堂・レストラン）、「宿泊客数の減少に歯止めがかからず、低価格での競争が激化」（旅館）、「売上が減少し、従業員を雇うこと自体が難しい状況」（理容業）、「新車販売台数の大幅な落ち込みや、車検整備台数の減少に伴い、廃業や倒産も発生」（自動車整備業）、「輸送量が激減し、車両や従業員も過剰状態」（その他サービス）といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東北、北陸信越、四国、九州ではマイナス幅が縮小したものの、他の5ブロックでは拡大した。
- なお、業況D Iが大幅に悪化した北海道は、建設業を中心とした受注の減少に伴う収益の低下、関東・近畿は、小売・サービス業を中心に、消費マインドの冷え込みによる売上の減少が、特に影響したものと見られる。
- ブロック別の向こう3カ月（3月～5月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	08年 9月	10月	11月	12月	09年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全 国	▲ 61.2	▲ 64.6	▲ 66.7	▲ 70.2	▲ 71.3	▲ 73.4	▲ 67.1 (▲ 41.6)
北 海 道	▲ 56.1	▲ 57.6	▲ 58.8	▲ 70.5	▲ 63.5	▲ 70.8	▲ 64.4 (▲ 45.8)
東 北	▲ 68.7	▲ 63.0	▲ 61.0	▲ 78.2	▲ 72.9	▲ 70.9	▲ 67.5 (▲ 46.2)
北陸信越	▲ 52.7	▲ 64.9	▲ 69.7	▲ 67.6	▲ 75.7	▲ 72.9	▲ 67.1 (▲ 35.3)
関 東	▲ 60.7	▲ 66.4	▲ 66.2	▲ 71.1	▲ 71.6	▲ 77.0	▲ 68.5 (▲ 37.0)
東 海	▲ 58.9	▲ 63.6	▲ 63.4	▲ 67.6	▲ 70.3	▲ 71.9	▲ 67.6 (▲ 47.7)
近 畿	▲ 69.4	▲ 67.5	▲ 74.4	▲ 76.1	▲ 75.3	▲ 79.8	▲ 71.0 (▲ 51.6)
中 国	▲ 60.0	▲ 64.9	▲ 74.8	▲ 73.3	▲ 74.4	▲ 77.7	▲ 70.5 (▲ 45.9)
四 国	▲ 60.6	▲ 64.3	▲ 60.5	▲ 55.3	▲ 63.6	▲ 59.8	▲ 53.8 (▲ 28.9)
九 州	▲ 60.3	▲ 63.4	▲ 66.2	▲ 65.8	▲ 69.8	▲ 69.5	▲ 67.5 (▲ 40.2)